

竜の子 奨学生

第23号
Mar.2019

その夢は、きっと世界を変えていく
The dream surely changes the world.



第36回交流会 初島にて



第36回交流会
(熱海海上花火大会)



SPECIAL REPORT I
(ランゴリ)

CONTENTS

- 2 卒業生の「現在の夢」
- 3 第36回交流会レポート
- 6 SPECIAL REPORT I
- 7 SPECIAL REPORT II
- 8 竜の子近況報告
- 12 竜の子近況報告 (OB・OG)
- 14 竜の子奨学生が選ぶ、日本で食べられる母国の味!
- 16 編集後記



公益財団法人 竜の子財団
Tatsunoko Foundation

現在の夢



張 愚

中国
九州大学人文科学府卒業
博士（文学）
現在 中山大学外国語学院
准教授

竜の子財団を卒業してから4年が経ちました。あっという間に時間は流れてしまったのですが、過去の交流会やイベントを振り返ってみると、本当に忘れがたく貴重な体験をさせていただいたと実感しております。

昨年6月に、中国の浙江大学と中山大学の人材招致プロジェクト「百人計画」に応募し、両方とも採用されました。いろいろ悩んだ結果、最終的には中山大学に赴任することになりました。11月に九州大学での研究員生活を終え、「千年商都」と呼ばれる中国広州に渡りました。赴任に伴う諸手続きがあり、やや忙しく感じますが、充実した日々を送っております。

近年、中国の大学では、研究の面における競争がますます激しくなり、プレッシャーを感じる部分もありますが、今後も屈することなく、精進していきたいと思います。また、教育の面においても力を注いでいく所存です。私の専攻は、日本語の歴史に関するものですが、現在の中国では、現代日本語・日本文化について研究と教育が盛んに行われており、古代日本語および、日本の古典文学に関心を持つ者がまだ多くありません。しかし、現代語と現代文化は古代語、古代文化の上に成り立っているため、両者のつながりを無視することはやはりできません。現代日本の言語・文化の特徴や社会事情をより深く理解するためには、その古い時代に遡ってみる必要性も出てくるでしょう。こうした教育現状を少しでも改善したいというのが現在の夢です。教壇に立つ日に、昔の日本語と文化について少しでも伝えることができれば、それが中国の若者たちの異文化理解につながるのではないかと考えています。

先日、引越し準備をしている際に、竜の子財団の卒業式でいただいた寄せ書きを見つけました。その中に、秋元理事長からの次のメッセージがありました。

「これほど一つの事に本気で取り組んでいる人の姿を見て、心を動かさなかった人はいません。その姿勢をいつまでも崩すことなく人生を歩んで行ってください。」

この言葉を胸に、夢に向かって歩み続けたいと思います。

ご寄付いただいた皆さまへ

この度、竜の子ニュースレター23号の編集委員長に選ばれて大変光栄です。皆さんと協力してニュースレターが完成しました。

私たちは日本に留学したことにより夢の実現に一步近づくことができました。多様な文化を理解したことは将来役立つことでしょう。しかし、外国に留学することは簡単ではありません。異国での生活はストレスもあり、経済的負担も重いです。そこで、本奨学財団のご支援は必要不可欠なものだと思います。経済的なご支援ばかりか、本財団を通して様々な方に出会い、様々な文化を知る事ができました。感謝の気持ちでいっぱいです。

（平成29年度竜の子奨学生 筑波大学 タン イン チャン）

第36回交流会レポート

平成30年8月4日～5日晴天の夏の日、竜の子奨学生の第36回交流会が熱海で行われました。今回の交流会は1泊2日の旅程です。一日目は初島に行ってアドベンチャーを満喫し、夕方にはホテルで食事と温泉を楽しみました。二日目は午前中に釣りをし、午後は陶芸体験、夜には熱海海上花火を観ました。日常のストレスを吹き飛ばし、普段にはできない体験をすることが出来ました。

● 1日目 ●

交流会の当日午前9時30分、竜の子の奨学生たちは東京駅八重洲中央口集合しました。皆久しぶりに会って笑顔で話をしながら、今回はどこに行くのかを楽しみにしていました。今回も交流会の行先は秘密だったので、交流会のスケジュールを受け取った時に初めて今回の交流会は熱海に行くのが分かり、熱海に行って何をするか期待しながら盛り上がりました。熱海に向かう新幹線は50分程かかり、竜の子財団の方が用意してくださったお弁当を食べながら隣のひとと会話をしたり、寝たりしていました。熱海駅に着くと、名古屋から来たサドラさんとリュウエイさんが合流しました。それから初島に行くフェリー乗り場までは熱海駅からタクシーに乗って移動しました。12時頃からフェリーを約25分乗って最初の目的地、初島に着きました。



初島まで運行するフェリー

初島船着場に到着した皆は「サルトビ」というアドベンチャーまで歩いて行きました。真昼の蒸し暑い天気が続いて、暑さ負けしないように気を付けながらアクティビティをしました。コースは初級と中級の2つの難易度があり、約20種類のアクティビティが出来ました。各コースの最後には、約40mのジップスライドがあり、乗る時に清やかな気持ちと共にスリルを感じました。難易度がかなりあるコースでは竜の子奨学生



アドベンチャーのアクティビティをする姿

たちがお互い応援したり、助け合う様子を見て心が温かくなりました。アクティビティが終わった頃には皆だいたい疲れていました。楽しい時間を過ごして船着場に戻る道中でいつの間にか日が傾き、汗もかわいてきて良い気持ちでした。



ジップスライドをする姿

フェリーで熱海に戻って来るとすぐバスに乗って、宿泊先のニューアカオホテルに移動しました。ホテルに到着すると、17時半頃でした。19時の夕食の前に少し時間があり、その間にホテル内にある温泉に行きました。温泉はとてもきれいで、崖の上の露天風呂から眺める海の景色はとてもすばらしかったです。リフレッシュ後、19時から夕食が始まりました。懐石料理はものすごく美味しくて、箸が止まらなくなりました。そのコース料理が少しずつ出てきて、全部食べ終わるころには本当にお腹いっぱいになりました。食事の途中では卒業が決まり、母国に戻るムンキルジュさんの卒業の言葉と記念品の贈呈式がありました。食後から寝る前までは自由時間で、他の露天風呂にも行ってみました。露天風呂から



母国に戻るムンキルジュさんの卒業の挨拶

の夜景は、夕食前と比べたら、真っ暗で何も見えなかったけれど、遠くから聞こえて来る波の音と海の水面に映る星がとても美しかったです。温泉で温まって体を癒され部屋に入ると、皆疲れていたのか、毎回の交流会でしていたゲームもしないで、そのまま寝てしまいました。



夕飯の懐石料理



温泉に入る前に部屋からの景色

(担当：平成29年度竜の子奨学生 東京工業大学 朴 胤植)

● 2日目 ●

翌日早朝、皆はホテルニューアカオの露天風呂に入浴し、相模湾の景色を一望しながら、癒しのひとときを過ごしました。9時半にホテルを出て、釣りを体験しに行きました。

今回は「筏釣りの東海」という海上釣り堀に行きました。ホテルからは観光バスで30分程度かかります。釣り場は岸壁から100mくらい沖合に設置してある筏になるので、船で渡ることになりますが2分程度で到着します。8人1組で分かれて乗れる大きさの筏が3枚あります。竜の子奨学生は数グループに分かれて釣り競技をしました。魚は釣り針を見抜いている場合が多いので、まずスタッフの方から、釣り方を教わり、皆は何回も練習しました。全員で20名を超える人数なので、最初爆釣を想像していましたが、現実には厳しかったです。10時頃から1時間程の釣果ですが、総計6匹という釣果となり非常に残念でした。しかし、熱海の町並みや島々を眺めつつ釣りをするととても楽しかったです。釣れた奨学生達は魚を持ち、記念写真を撮りました。そして、その魚は持ち帰りをしました。

次は「漁師家大次郎丸」という料理店へ移動し、釣った魚を持ち込んで、刺身や揚げもの、煮物などにして食べました。釣ったばかりの新鮮な魚なので何時もよりいっそ



釣り競技をしました



釣果の記念写真



船の上で奨学生全員の記念写真



昼食の料理店内撮影



陶器を作る姿

う美味しく感じました。「漁師家大次郎丸」はテレビ東京で紹介されたことがあるので、芸能人のサインがたくさん飾ってありました。大満足な昼食会でした。

食事が済むと、次は伊豆高原体験の里にある「八幡野窯」という陶芸の体験工房に向かいました。そこでの一番人気の体験メニューは電動ろくろ体験です。作り方をDVDで習い、途中でスタッフの方にアドバイスしてもらえます。1kgの粘土を自由に使えるので、皆は2個3個とがんばって作りました。楽し過ぎて1時間があっという間に過ぎ、気付けば終了時間となっていました。



和牛富士山溶岩ステーキ料理

17時半、熱海温泉「湯宿一番地」に到着し、少し休憩し、疲れを癒すことが出来ました。夕食は旅館の名物「金目鯛のあたま煮」と「和牛富士山溶岩ステーキ」です。和牛富士山溶岩焼きは自分で焼くので楽しいです。食事はとても美味しくボリュームもかなり多く大満足でした。旅館内の雰囲気もとても良く、スタッフの元気で場が盛りあがりました。



宴会場の雰囲気

20時、皆で2階のウッドデッキに集まり熱海海上花火大会を楽しみました。熱海の花火の大きな特徴の一つはフィナーレ「大空中ナイアガラ」、もう一つは「打上げ会

場」です。毎開催フィナーレを飾る「大空中ナイアガラ」は仕掛け花火ではなく、会場全体から打上げるスターマインで、銀色の花火が夜空を埋め尽くし、真昼のように明るく輝きます。会場である熱海湾は、3方向を山に囲まれたすり鉢状の地形のため、海で上げる花火の音が反響し、大きなスタジアムのような音響効果があり、絶好の花火打上会場です。20時50分、最後の「大空中ナイアガラ」はスケールが大きくて見応え十分でした。あまりの美しさに瞬きを忘れるほど、皆で感動しました。



熱海の花火

まもなく21時頃皆とお別れになりますが、本当に名残惜しい気持ちでいっぱいです。秋元理事長は卒業生ムンキルジュさんに挨拶して、ムンさんからは「韓国にいらしたら御連絡ください」とお伝えしました。その後新幹線に乗り、45分後には東京駅に到着しました。今回の交流会では竜の子奨学生達それぞれの国の文化や自分の研究している事を話すことが出来ました。皆お互いに相手のことを知り関係を深めることができました。また次の交流会で会えるのを楽しみにしています。

(担当：平成27年度竜の子奨学生 九州大学大学院 方 梅)

SPECIAL REPORT I

● ネパールのお祭り ●

『ネパール最大の祭り ダーシャイン (Dashain)』

ネパールは多民族国家で93の異なる言語や地域語を持つ100以上の民族が暮らしています。

ネパールは文化と伝統が豊かな国です。私たちが祝う様々なお祭りや行事は、それぞれ独自の意味を持っています。私たちが祝う祭りの中で、ネパール人にとって最も偉大な祭りであるダーシャインは常に熱意と喜びと共に祝われます。ダーシャインは最も長く、最も注目し値する祭りで、悪に対する善の勝利を象徴しています。それは10月に15日間祝われます。特に、1日目、7日目、8日目、9日目、10日目が最も重要です。ネパール人の国外で働く人はこの祭りに参加するために帰国し、また帰国できない人は世界中どこにいても家でこの祭りを祝います。ダーシャインの時は家族や友人と再会できるように、会社も学校もお休みとなります。ヒンズー教の神話では、魔族マヒシャスラ (Mahishasur) はデヴァロカ (神々が住んでいる世界) で恐怖を引き起こしましたが、女神ドゥルガー (Durga) はマヒシャスラ (悪魔) を殺しました。ダーシャインの最初の9日はドゥルガーとマヒシャスラの異なる存在の間に起こった戦いを象徴しています。10日目は、女神ドゥルガーがついに彼を破った日です。ネパール王国では、女神ドゥルガーの勝利を記念して人々はたくさんの祈りを捧げたり、水牛などの動物の血を捧げものとして祀ります。この日、



両親からティカをもらった後
(ママと私)

私たちは家族の偉い人から祝福の印として額にティカ (赤い印) をつけてもらい、ジャマラ (植物) を貰います。若い人たちは特別な「お年玉」も貰えます。この日は、家族全員で食事をし、トランプ、凧あげなどを楽しみ、一家で団らんします。

『花と光の祭り ティハール (Tihar)』

ティハールはダーシャインに次いで2番目に大きな祭りです。それは花と光の祭りとも呼ばれます。主にマリーゴールドの花と光を飾ったりします。人間や神だけでなく動物にも貢献しているので、非常に重要であると考えられています。ティハールは人間とカラス、牛、犬などの動物との間の神の愛情を表しています。最初の日、カラスのために祈りをします。その日、カラスのために、家の屋根の上に、お菓子や料理が供えられます。2日目はドッグ・ティハール (犬の崇拝) と呼ばれます。その日は花輪、ティカ (額に赤い印)、おいしい食

べ物を犬に提供し、人間と犬が大切な信頼関係にあることを示します。3日目の朝はガイ・ティハール (牛の崇拝) です。ヒンズー教では、牛は繁栄と富を意味します。古代の人々は牛から多くの恩恵を受けました。そのミルク、糞、さらには尿は浄化のような目的のために使われました。このように、この日に人々は彼らに花輪を付けて、そして、彼らに最高の芝生を与えることによって牛に感謝を示します。家はきれいにされ、出入り口と窓はマリーゴールド、千日草の花で作られた花輪で飾られます。夕方になると、繁栄と幸福を歓迎するために出入口にランゴリを作って、石油ランプ (Diyo)

またはキャンドルを点灯することによって、家族に与えられたすべての恩恵を受けるため富の女神 (Laxmi) に感謝します。夜になると、女の子たちは一晩中 (Bhailoとして知られる) 楽器の歌と踊りで家の中からチップとしてお金を集めて、彼ら自身の間で恩恵を共有しながら踊り、近所のすべての家を訪れるのを楽しみます。

3日目以降、ティハールでは光と花火とともに人々はダンスなどをして祝います。ティハールの4日目には、人々の文化的背景に応じて、3種類の既知のプジャ (お祈り) があります。牛は、主にこの日は様々な食べ物を与えることによって崇拝され

ティハールの5日目と最後の日、兄弟崇拝 (Bhai Tika) と呼ばれます。姉妹たちは彼らの兄弟の額に7色のティカを付けます。これは姉妹から兄弟たちへの長生きの祈りを象徴します。

以上が、ネパールで有名なお祭りです。皆さんも機会があったらぜひ行ってみてください。



ドッグ・ティハール (犬の崇拝)



日本で、兄弟崇拝



花輪

SPECIAL REPORT II

● 名古屋市春節祭り ●

暖かい陽射しが注ぎ込む、そんな冬の休日に名古屋市春節祭りとの出会いがありました。

名古屋市栄区久屋大通り駅の地下から行くと、目の前には手に旨いものを持ち、カメラも構えている人たちが溢れていました。そこは第13回名古屋市春節祭りの会場でした。春節は、もともと旧暦1月1日のことで、日本でいうと大晦日と同様に、新年を迎える日です。春節は、家族が集まってご馳走を食べたり、一緒にテレビを見たりする大事な年中行事です。名古屋市春節祭りは、名古屋中国春節祭実行委員会と中国領事館の主導で開催されるイベントです。名古屋市に在住している在日中国人や、中国人留学生に、故郷の「記憶」と「味」を感じさせるため、2007年から行われています。私が参加したのは、2019年1月12日から14日の3日間連続で開催された第13回名古屋市春節祭りです。

初日は、琵琶の演奏から始まりました。1月の名古屋は、季節がすでに厳冬になり、呼吸しようとするたびに、喉が凍ったかのように感じました。午前11時頃でしたが、日差しは明るいのに肌寒く感じました。琵琶の音は、まるで空気を突き刺すように、身体に沁み渡りました。琵琶の演奏後は「変面」という、中国伝統的な芸の披露でした。



変面のステージ

披露でした。

春節祭りの醍醐味は、やっぱり日本でほとんど食べられない「味」でしょう。飲食店の屋台は、会場の外側周りに位置しました。羊肉の串焼きから、東北三省の名物である「^{カオレーメン}烤冷面」、酸辛タンメンなどがあり、本当に人々の胃袋を迷わせるほどおいしくて日本ではめずらしい食べ物がいっぱいありました。中国人が食べても絶賛するような飲食店がいっぱい出店したため、名古屋市の周辺から中国の本番の味を味わいたい客も多数みられました。私の大好物である「串焼き」も、羊肉のほうがおいしいため、日

本では絶対味わうことのできない味でした。

二日目は、民族ダンスが披露されました。パフォーマーたちは、水色の衣装を着てました。手に牡丹の花模様が書いてある紙傘を道具として、手に持ちながら踊り始めました。妖艶な着物姿をしたのではなく、古代中国の美人のしなやかさが溢れる踊りに、思わず呼吸を忘れてしまいました。また、少林寺の僧侶たちによる、「太極拳」も披露されました。しなやかな民族ダンスと勇ましい太極拳のパフォーマンスは、中国文化のもつ異なる側面を見ることができました。

最後の日になると、最初に出演したのは、名古屋の地元アイドルグループ「ファクトリーdela」でした。非常に活気のある歌と踊りを見ることができました。また、中国の名曲メドレーも披露されました。メドレーの演奏中、一回会場の客も歌手と一緒に歌い合うようになりました。

あっという間に今回の春節祭りが終わりましたが、春節祭りに参加した人々は故郷の記憶が思い出されたでしょう。名古屋市で一人で頑張っている在日中国人たちは、このイベントを通してすこしでも故郷にいる家族に近づいたと感じるのでしょう。串焼きを食べながら、春節祭りの会場を回ると、周りに同じ言語で話す人にあふれて、思わず親近感が湧いてきました。本当に故郷にでも帰ったかのように、思いました。これからも、名古屋市春節祭りにぜひ参加したいです。



串焼きを手に



民族ダンスのパフォーマーたち

(担当：平成30年度竜の子奨学生 名古屋大学 劉 毅)

竜の子近況報告



かすかに見えるのは
国後島です

コ セイヒ
胡 政飛 (中国)

北海道大学 文学研究科
人間システム科学専攻 博士3年

「不思議な半年」

夏から冬にかけ半年は、新しい発見がいっぱいでした。札幌の夜空は、ネオンより遥かにキラキラしています。思ったより自分はたくさんの人に愛されていて、たくさんの人に頼られています。感謝の気持ちはいっぱいです。

地震の影響も心配でしたが念願の知床に行ってきました。そこで実際になかなか出会えない熊に出会えました。目的地には行けなかったですが、熊に会っても無事だったということは、神様に恵まれたと感じました。

研究も順調に次の段階に進みました。次はゴールで良いなと思います。頑張ります。



聖護院カブ

サイ レイカ
崔 麗華 (中国)

京都大学 農学研究科
森林科学専攻 修士2年

「京野菜聖護院カブ収穫」

昨年の春から始めた庭でいろんな野菜を育てています。今までカボチャ、サラダの野菜、トウモロコシ、トマト、キャベツ、白菜、ソラマメ、brussels sprouts、funnel、カブ、ほうれん草などでした。みなさん、無農薬で化学肥料なしで野菜を育てことはなかなか難しいですよ。スーパーで見られるカンペキな野菜の葉っぱをみると不思議だと思います。普通は穴だらけのはずなのに…

写真は12月に収穫したカブです、普通の聖護院カブはこれより3倍ぐらい大きいですが、庭の土が固かったので大きくならなかったです。小さくても味もいいし、見た目もかわいくとても気に入ってます。誰かいいレシピ知ってませんか？ぜひ教えてください！



親友と支笏湖にて
(本人中央)

オウ カネイ
王 佳寧 (中国)

北海道大学 教育研究科
教育行政学専攻 修士2年

「周りの人・ことを大事にしながら自分の人生の道を歩む」

昨年9月北海道で大きな地震が起きて、この様な大きな揺れは人生初の体験でした。恐怖を感じたとともに、目の前の人、ことを大切にする思いが一層強くなっています。今冬、北海道の雪は例年より遅くて、本格的な雪が降る前に、親友と一緒に支笏湖へ行って、山に登ったり、温泉に入ったり、自分の人生ストーリーをシェアしたりしていました。忙しい研究生活で一息つけました。

さらに、修論も無事に提出しました。これまで沢山の方から色々な助言と応援を頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。次のステージに順調に進むよう頑張っています。



2018年バレーボール女子世界選手権決勝戦

ソウ ケン
曹 妍 (中国)

電気通信大学 情報理工学専攻
情報ネットワーク専攻 修士2年

「学生のうちにいろいろ体験」

2019年4月からこれまで学んできた情報技術を活かせる仕事を始めます。現在、卒業に向けて修士論文を頑張っていますが、社会人になると忙しくて自由に時間を使うことができないと思って、今のうちに自分のやりたいことをいろいろ楽しんでいます。

2018年10月20日横浜アリーナで開催された世界選手権女子バレーボールの3位決定戦、決勝戦を生で初めて見に行きました。最高でした。中国代表チームが3対0でオランダ代表チームを下し、3位の好成績をおさめました。選手たちの粘り強く戦う姿に感動しました。

旅行もいろいろ行きました。日本有数の高原散策コースで知られる上高地、銀杏並木と日本庭園の紅葉で有名な昭和記念公園などを楽しみました。



小学校の模型

タパ マガル プナム (ネパール)

東京電機大学
理工学部 2年

「2018年フラッシュバック」

2018年はすべてが異なっていて、エキサイティングで、そして何よりも挑戦的でした。もちろん悪い日もあったが、これは私の人生に大きな影響を与えたことは間違いない…現時点でも将来にも。

後期では、私は小学校をデザインしました。そして私のチームも選ばれました。私はいつもプレゼンテーションの時に、日本語で表現するのは少し大変ですが、教授の方々と友達とはスムーズに話をすることができました。これからも色々、頑張っていきたいと思います。



武雄御船山楽園で
撮りました

ホウ メイ 方 梅 (中国)

九州大学 医学系研究科
医学専攻 博士4年

「最後の留学生生活を楽しんで頑張っています」

昨年10月博士論文を完成させ、英文雑誌Frontiers Immunologyで掲載されました。2019年1月卒業論文公開審査予定です。2018年は充実の一年でした。今、最後の公開審査を完成させるために、一生懸命に準備しております。私は今年4月から母国に戻って、河北医科大学付属病院で働きます。社会人になり、自分の夢を実現していきたいと思います。いつも皆さんの健康と成功をお祈りしています。



2018年7月上旬、
豊明市藤田医科大学
病院子供病棟

ユルダシェブ サドラ (ウズベキスタン)

名古屋大学 国際開発研究科
国際協力専攻 博士2年

「論文と子育てを頑張っています」

2018年7月に子供が生まれました。その一週間、藤田医科大学病院子供病棟に居て、先生たちから子育ての基本や注意点など全て教えて頂き、非常に助かりました。それからずっと子供が勉強や仕事のモチベーションになっています。1月の中旬にゼミでの研究発表で、指導教員や同級生の皆さんからコメントを受け論文を修正し、3月末に国際開発研究科学位論文中間報告会でD2研究発表をする予定です。ご支援してくださった皆様に心よりお礼を申し上げます。



大阪に泊まったカプセルホテル

キン エキゲン 金 奕群 (中国)

早稲田大学 商学研究科
商学専攻 博士1年

「鍋を食べすぎないように、、、」

冬の食べ物といえばやっぱり鍋ですね。冷たくなった体をすぐに温めますし、準備も極めて簡単です。鍋自体は栄養バランスのよいものかもしれませんが、ほぼカロリーしかないご飯もついでに多めに食べてしまいました。今年の冬もまた、太るのでしょうか。

勉強面について、春と夏の間に実施した先行研究のレビューからどのように新しいネタを生み出すかをひたすら考えています。そのうち、自分がとても興味があった1つのテーマについて、9～10月中に分析を行って、大阪の学会で報告しました。質疑に対するディフェンスが弱かったと感じています。経験不足かもしれませんが、頑張ります。



妻と道後温泉本館前

ヒョウ ガンヒ
馮 岩飛 (中国)

北海道大学 国際広報メディア観光研究科
観光創造専攻 博士4年

「松山に帰ってきました」

夏休みを利用して、妻と愛媛に行ってきました。温暖な松山で短い3年間過ごしたので、私にとって松山は第二の故郷のような存在です。なぜかという、私の日本語の上達や日本社会を知る大事な時期をそこで送ったからです。先生と話したり、バイト先の友達に会いに行ったり、しまなみ海道で瀬戸内海を眺めたりなどして、松山で昔やっていたことをたくさんやりました。路面電車が道後駅から出発時のメロディー、街をゆっくり歩くおばあちゃん、草木が生い茂る生命力の芳香、青空を映す穏やかな瀬戸内海、何一つ変わりありませんでした。

気候が温暖なところに生活する人々のこころも温かいと私は思います。大都市生活は便利ですが、私は松山のような人間味あふれる小さな田舎に惹かれます。



学会でのポスター
発表の様子

パク ユンシク
朴 胤植 (韓国)

東京工業大学 理工学研究科
化学工学専攻 博士4年

「平成Jump!」

学校の活動は今年の夏に国際学会に研究結果を発表し、研究を行いながら毎日を過ごしています。最近では健康管理のために、ジムで運動を始めました。最後の平成年は時間が過ぎるのがとっても早く感じます。平成に多くの思い出がある私としては平成年号が終わるのがなんとなく寂しく感じます。竜の子財団の皆さん、考えた事をすべて成し、楽しい思い出がある今年になりますように。それでは次の交流会で皆さんとお会いできる事を楽しみにしています。



24歳の誕生日を祝ってもらいました (本人左上)

マハウオンウィリヤ・スタシニー (タイ)

東海大学 教養学部 国際学科
学部4年

「部屋探しと東京散歩」

今年の4月から日本橋の会社に就職する予定なので、近くの駅を散歩しながら家賃、治安、便利さなどを自分なりに調査しています。秋学期は少し時間に余裕ができましたので、AGORAという東海大学の語学センターで英語のラーニングサポーターをしています。スピーキング練習から留学相談まで幅広く対応していますが、訪ねてくる学生はみんな頑張り屋で、その姿を見た私も頑張りたい気持ちになりました。この4年間の留学生生活は私の人生を変えた貴重な経験でした。



第一回卒業論文の
発表後

タン イン チャン (マレーシア)

筑波大学 社会・国際学群
社会学類 学部4年

「大学最後の学期」

今は大学最後の学期で最近はとても忙しいです。卒業論文を完成させることは思ったよりも難しかったですが、書き終わった後の満足感は絶対忘れられません。しかし、どんな良いことにも終わりがあります。私の日本滞在期間も同じです。私が日本で受けたすべての援助にとっても感謝しています。

次は人生の新しい章へ。日本では勉強になる経験をし、多くのいい思い出を作ることができました。次はヨーロッパで夢を追いつけたと思っています。そこでどんな新しい経験をするのが楽しみです。大学卒業後の生活も楽しみにしています。卒業後も皆さんとお会いする機会があれば嬉しいです。

「Lucky 2019」



2018年12月に中国のアモイにて

チョウ セイヨウ
張 政陽 (中国)
東北大学 環境科学専攻
先進社会環境学専攻 博士2年

2018年は充実した一年となりました。国際学会やセミナーでフランスのパリとメッツ、オーストリアのウィーン、中国の北京と厦門に訪れました。ちょっとした観光と素晴らしい人々とのお話の中、これまで自分の人生観、価値観と世界観に大きな衝撃を受けていた一方、自分が大きく成長したと実感しました。また、金沢でインターンシップを行い、車を解体しながら勉強している内に、マレーシア人のビジネスマンや大学の教授たちと良好な関係を築くことができました。真摯な友情、師弟愛、家族愛こそが人生の宝物です。先週までに一本目のジャーナル論文を投稿し、要約一段落がつかしました。残り1年で博士号が取れるかどうか勝負ですが、意外と楽のための苦労は嫌いじゃないです。賢く頑張っていきたいと思います。



年末年始を日本で家族と過ごしました。

チャンポンバックディー・インオン(タイ)
東海大学 工学研究科
医用生体工学専攻 修士1年

私はやはり修士課程に進むことにしたのが2018年の一番良かったことでした。学会発表や留学生のサポートなど、大学院だからこそできることがたくさん増えました。現在、タイの大学から東海大学病院に短期で実習を受けに来た大学生たちをサポートしたり、東海大学の留学生の勉強を助けたりしながら自分の研究を頑張っています。

私は日本の大学を卒業したので、タイの大学はどんな授業を教えているか詳しい内容がわかりません。彼らに接したことにより私もタイの医療技術の知識をより身につけることができ、友達も増えてとても良かったです。2019年もたくさんの学生が来る予定で、楽しみにしています。

「本格的な四川風火鍋に出会った！」



元旦の日に食べた四川風火鍋！やみつきになっちゃうよ！

リュウ エイ
劉 鵬 (中国)
名古屋大学 環境学研究科
社会環境学専攻 修士2年

修論で自分の時間がほとんどなくなっています。最近唯一の嬉しいことは、元旦の日に研究室全員そろって食べた名古屋市新栄町に位置する「四川伝統火鍋蜀漢」の火鍋です！一度口にしたら絶対に忘れられないほどの旨味でした。内臓系が大好きですが、なかなか日本では食べられないのです。ここでは食べたいものが全部揃っていました！火鍋に入れる品は40種類以上あるという本格的な火鍋を味わえます。辛さはもちろん、冬に絶品な食べ物です。食べると全身暖かくなります。ではでは、皆さんもぼかぼかの一年をお迎えするように。また3月お会いしましょう。



新元号元年生まれ予定の友達の子ちゃんとパーティー(本人左から2番目)

パク サンウォン
朴 相源 (韓国)
東京工業大学 物質理工学院
材料系専攻 博士2年

「平成最後の年」

私は今年の秋卒業に向けていつものように研究に励んでいます。皆さんご存知のように2019年は平成最後の年で、5月から新元号となります。留学生にとって和暦は覚えづらいのですが、幸い私は昭和最後の年に生まれて自分の年が今年の平成年と一緒に数えやすかったです。こういった変化の年に卒業という人生の境目を無事に終わらせるように頑張りたいと思います！



竜の子(OB・OG)近況報告

「大学復帰?!」



大学での初出勤

ケン エ
慧 (中国)
東京大学卒業

2018年3月、竜の子財団を卒業して以来、論文と就活で充実した日々を過ごしています。昨年3月に博士課程を満期退学して、9月に「大学復帰」しました！実は都内の大学で非常勤講師として中国語を教えることになり、大学キャンパスに戻りました。4年生向けの授業で、中国語だけでなく、中国映画や文学、文化などを含む内容も取り入れて、楽しく授業をしております。今年4月からは1年生向けの授業も担当する予定で、私が以前五十音図を勉強したところの初心者の気持ちを思い出しながら、授業計画などを立てています。受講生に「この授業に出て良かった」と評価されるように頑張ります。

また昨年秋には小規模で竜の子財団のOB、OGに会って、竜の子財団で過ごした日々を話しながら大いに盛り上がりました。共通の楽しい思い出があるというのはとても幸せなことですね。3年間ご支援いただいたこと、またこのような素敵な人に出会える機会を提供してくださった竜の子財団関係者のみなさまに心より感謝を申し上げます。これからも夢に向かって日々頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



日刊自動車新聞 (左したの小さな写真に私)

キム テヒョン
金 兌炫 (韓国)
京都大学卒業

「自律運転を2020年に!!」

2016年度3月に竜の子財団を卒業し、翌年12月から金沢大学の自律運転に関する研究室に研究員として働き始め1年目になります。初めの頃はこちらの研究内容やプログラムを理解するのに明け暮れて、自分の論文に関する仕事が出来ませんでした。一方、今までの不規則な生活の影響から6月お尻の手術をすることになり一苦労しました。しかし、10月からは健康も取り戻し、仕事にも慣れ楽しく生活しております。

「兵役義務を果たしています！」



陸軍訓練所の修了式 (本人2列目右端)

イ サンギョ
李 常揆 (韓国)
早稲田大学卒業

ほぼ1年ぶりに近況報告を投稿します。皆さん、いかがお過ごしでしょうか！去年の7月から休学し、兵役義務の一環として検察庁で社会服務要員として働いています。最近は1ヵ月間の軍事訓練に参加して修了したところです。

去年の上半期には韓国で地方選挙がありまして、運がよくソウル市長選挙のある候補の選挙キャンプに参加することもできました。おかげで、学校の成績はズいぶんボロボロになってしまったんですけど、候補が当選し、とてもやりがいのある一年でした。私もいつか政治家の夢を目指しているので、夢に向かって一歩近づいたのではないかなと思いました。

兵役義務が終わるまではあと1年半ぐらい残っていて、割と時間に余裕があるので、今まで足りなかった勉強や学校へ戻った時に必要な知識や、能力などを備えるつもりです。

いつも皆さんの健康と成功をお祈りしています！

もし、韓国にいらしたらぜひご連絡ください！



2018年11月にマレーシアの国際物流交流会での記念撮影

ギ トウキ
魏 登輝 (中国)
東京外国語大学卒業

「初心を忘れず、日々精進」

ここ最近の近況報告を一つの単語で表しますと、「出張」になるかと思います。私は今も東京新橋の貿易会社で元気にやっています。仕事の内容も変わらず日本への輸出入にかかわる内容ですが、個人的にも会社的にも、海外（中でも東南アジア）のローカルの物流事情を把握する必要が出てきています。それを学びに出張や駐在する機会が増えています。たまに体力の限界を感じることもありますが、それとともに異なる文化を体験できた時の満足感や、実際問題を解決できた時の達成感に満ちた日々です。

これからも竜の子OBとしての初心と夢を忘れず、他の人の力になれるよう、さらなる成長に向かって頑張っていきたいと思っています。



娘の4歳の誕生日に

キム ジオン
金 智媛 (韓国)
一橋大学卒業

「韓国語の講師をしています。」

皆さまお元気ですか。

母語である韓国語を生かして、NHK学園オープンスクール国立本校で韓国語講師を務めています。2018年12月には同校でスペシャル講座として韓国料理教室を開きまして、大好評でした。

また、アメリカにいる時に生まれた娘はもう4歳になりました。

現在大学院にもまだ在学しておりまして博士論文執筆も頑張っています。

次回は、研究面でもより良い結果を出して報告できるように、論文頑張ります。



チェスキー・クルムロフ
(チェコ) 展望台

ムン キルジュ
文 吉周 (韓国)
九州大学卒業

「東ヨーロッパ旅行、そして入社」

皆さんご無沙汰しております。2018年度卒業生の文吉周です。私は去年9月に九州大学博士後期課程を卒業して母国（韓国）に帰国しました。そして、入社前に東ヨーロッパへ旅行に行って来ました。今回の旅行は卒業で疲れた私にリフレッシュの機会でした。旅行から帰って来て内定先の現代製鉄に入社しました。就職先では圧延技術開発チームに配属されて、圧延ロールの開発や鉄板の厚みおよび形状などを管理する仕事を行っています。まだ、会社の仕事に慣れては無いですが、学校で学んだことを生かして頑張っています。韓国に来る機会がありましたら連絡ください。皆様の今後のご活躍をお祈り申し上げます。



2018年12月に松下政経塾にて松下幸之助様の自筆「素直」の前

シン チュウカ
申 中華 (中国)
東京大学卒業

「日中の学校交流と企業交流に力を尽くしています」

2015年3月卒業したOBの申中華です。私は旅行会社の子会社に勤めています。この部門の主な仕事は、日本と中国の学校交流と企業交流を円滑に行うことを目的にしています。

日々衣食住に関する細かいことに忙殺されますが、各交流の終了後にお客様の笑顔と親指を見て非常に働き甲斐と感じます。特に私が大学院時代に学んだ環境問題解決のノウハウを、日本の環境技術を求めてきた中国の企業主に説明したときに、皆様に評価され、実りのある日中企業コラボをもたらしたことに、とても嬉しかったです。



竜の子奨学生が選ぶ、日本で食べられる母国の味！

留学生達にとっては、日本に留学できるのは夢でした。留学生活を送っていくうえで、時には、母国の味味の料理を食べたい時が出てきます。幸いなことに東京では、忘れられない故郷の味を楽しむことができます。今回は、竜の子奨学生が特選した、東京で味わえる本格的な「母国の味」を持っているお店を紹介します。是非足を運んでみてください。

Nepāl

タパ マガル プナムさんがおすすめ、是非食べてほしいネパール料理 3 品をご紹介します。場所は、新大久保にある「ネパール民族料理アーガン」レストランです。

おすすめ料理の 1 番目はモモです。モモはチベット発祥の餃子のことです。ネパールではモモを嫌いな人が少なく、いろんなメニューを見ても注文する時はモモになるくらいとても美味しいです。

2 番目はネパールの伝統的な料理です。ネパール料理の定番料理タカリ デロで、日本で言う定食のようなものです。こちらのお店では結構一人で食べきれない量なのでご注意ください。

3 番目はヨーグルトをベースに作られた飲み物です。プレーンなものからバナナ、マンゴーなど季節のフルーツを混ぜたものまで様々な種類があります。夏の暑い日によく合います。



モモ



タカリ デロセット



マンゴーラッシー

住所：東京都新宿区大久保2-32-3 リスボンビル4F
年中無休 営業時間：11:00~24:00

Malaysia

タン イン チャンさんがすすめるマレーシア料理は、「クアラルンプール」と言うお店です。東京ドームの近く、文京区にあるお店です。そのお店はマレーシア有名な料理や他の地元料理を販売しています。このお店では「バクテ（肉骨茶）」と「チキンライス」をお勧めしたのですが、グループで行くなら、「イカン バカー（焼き魚）」をおすすめしています。もし一人で行くなら、「ラクサ（麺）」や「カレーパプ」や「ロティチャナイ（焼いたパン）」を食べてみてください。

「クアラルンプール」のお店のオーナーはとても優しく、メニューの価格も高くないです。東京に来た時には是非「クアラルンプール」に立ち寄ってマレーシア料理を味わってください。



豆乳とゼリー



チキンライス



Bak Kut Teh/肉骨茶

住所：東京都文京区本郷2丁目18-9
定休日：土曜日、営業時間：月～金、日（11:00～15:00、17:00～22:00）

China

方 梅さんのおすすめの中華料理店「中国茶房 8 赤坂店」は24時間営業する北京ダック専門店です。赤坂見附駅から10番出口を出てエスプラナード赤坂通り沿いにあります。中国で名を馳せた料理人達が名物北京ダックなどを現地そのままの味付けで出します。メニューの価格は安いし、店内は中国屋台の雰囲気です。私の好物は屋台風串焼き「炭火の羊肉串」です。ソフトドリンク「酸梅湯」は爽やかな味わいの健康梅ジュースですがとても美味しいです。スタッフはほとんど中国人ですが日本語も対応でき、日本語や英語のメニューもあります。



北京ダック



屋台風串焼き



酸梅湯

住所：東京都港区赤坂3-8-8 赤坂フローラルプラザビルB1
年中無休 営業時間：24時間

Republic of Korea

パク ユンシクさんおすすめの韓国料理店「一龍」は、赤坂と溜池山王の間にある韓国料理の‘ソロロンタン’専門店です。韓国で食べた味そのまま日本で楽しめると思います。ソロロンタンの由来は色々ありますが、この店に書いてある漢字‘雪濃湯’は雪のように白く濃いスープという意味です。韓国料理といえば辛い料理を思い浮かぶかもしれませんが、全然辛くなく食べやすい料理です。ソロロンタンは牛の骨と肉を鍋に入れて長い時間煮込んだスタミナスープです。このお店は24時間営業で大きな鍋の火を一度も消したことがないらしいです。基本的には肉、素麺、ネギ、白いスープをご飯と一緒に食べます。ご飯をスープの中に入れて、混ぜて食べます。好みによって胡椒や塩を入れ、味の調整をします。ソロロンタン一器の値段は1,620円（現時点）で、11種類のおつまみ（キムチ、カクテキ、のり、もやし、卵等）とライスが付いてあります。さらにカクテキやキムチやライスはかわりできます。ソロロンタンのスープは味が濃く、特製の牛頬肉もすごく柔らかくて美味しいです。竜の子財団の皆様、赤坂の周りに行く機会がありましたら、ぜひ暖かいソロロンタンをお楽しみください。



お店の外観



注文したスユック（牛肉）と11種類のおつまみの写真



一龍のソロロンタン

住所：東京都港区赤坂2-13-17 シントミ赤坂第2ビル1F
年中無休 営業時間：24時間

編集後記

委員長 筑波大学 タン イン チャン

この度、第23号の編集委員長を担当させていただきました。今回は二度目の参加ですが、委員長は初めての経験です。さらに、日本語での会報誌を担当するのは初めてで、マレーシアにいた時に雑誌を作った経験とは違います。それを通して、私はたくさん新しいことを学びました。編集会議は楽しかったし、皆さんとても素敵でした。最後に、編集委員の皆さんや手伝ってくださったプロの方や近況報告してくれた竜の子奨学生の皆さんに感謝いたします。

副委員長 名古屋大学 リョウ エイ 靄

このたび、竜の子財団会報誌第23号の副委員長を担当させていただきました。今回は、SPレポートの名古屋春節祭りの記事を執筆しました。修論の提出時期と重なり、レポートを書くための素材を集めることが苦勞しましたが、ほかの編集委員と力を合わせて最後まで文章の修正と、レイアウト編集をし無事に完成しました。最後に、この機会を頂いた竜の子財団の寄付者の方々と、編集委員の皆様に心から感謝の意を表します。

委員 東京工業大学 バク ユンシク 胤植

この度、竜の子財団の会報誌を編集する機会を頂きありがとうございました。「交流会の1日目」と「日本で食べられる韓国の味、ソロロンタン」執筆しました。2度目の参加だったので不安がなく、楽しみながら竜の子奨学生の皆さんと会報誌を最後まで完成できました。編集会議で適切な語彙の選択や表現を修正するのが、自分にも勉強になりました。本当に貴重な経験でした。今回の編集委員皆さんと支援して下さった竜の子財団の関係者に感謝します。



第三回編集会議にて

委員 九州大学 オウ メイ 方 梅

この度、会報誌第23号の編集委員を担当しました。会報誌作成に参加するのは2回目ですが、今回は交流会2日目を執筆しました。原稿に添付する写真について、竜の子奨学生の皆さんとラインで連絡し、お手伝い頂いて有難うございます。また、編集会議の中で、文章を添削することで、日本語力を高めることができました。最後に、留学生活を支えてくれた竜の子財団の関係者と寄付者の方に感謝を申し上げます。



第二回編集会議後にて

委員 東京電機大学 タバ マガル ブナム

この度、竜の子財団の会報誌を編集する機会を頂き本当にありがとうございました。私の初めての会誌作成ですから不安でしたが、皆さんと一緒に協力し無事に完成することができました。ネパールの二つの大きなお祭りとして日本で食べられる母国料理についてご紹介させていただきました。本当に嬉しいです。

最後に、竜の子財団の関係者と寄付者の皆様に心から感謝の言葉を申し上げます。



第一回編集会議にて



「その夢はきっと世界を変えていく」

夢 希望をかなえる為 僕たちは生きている
その夢はきっと世界を変えていく 平和のため
いろんな事があるけれども どんなときでも

作詞：竜の子奨学生

作曲：班 文林（平成21年竜の子奨学生）

仲間とともに乗り越えて 竜の子の誇りを胸に
夢 希望をかなえる為 みんなは生きている
その夢はきっと世界を変えていく かならず